

いなむら市長の「い~なこの街 尼崎」 7月

テーマ：あまらぶ大作戦～尼崎を好きな人があふれる町をめざして～

稲村：尼崎市長の稲村です。月に一度お届けしておりますこのコーナー。今回は尼崎市の顧問、船木成記さんをゲストにお迎えしまして“あまらぶ大作戦～尼崎を好きな人があふれる町をめざして～”と題して尼崎市のイメージアップや街の活性化に向けたシティープロモーションの取り組みについてお話をしていきたいと思います。今日は船木顧問、どうぞよろしくお願ひします。

船木：はい、宜しくお願ひ致します。

稲村：ちょっと緊張してますね。

船木：いや、とても緊張しています。普段、黒子になるのが仕事なので自分でこうやって出てくるのは非常に汗だらだらです。

稲村：そうかもしれませんね。実はですね、私も市長に就任以来、車座集会ですとか、いろんな場面で市民の方々に直接いろんなご意見をお聞きするんですけども、とにかく年齢を問わず多くの方から言われるのが「市長！尼崎のイメージをもっと良くして欲しい！」もうこれなんですよ。これやっぱりやって行こう。私自身も強く思っていますので船木顧問に少し助っ人として尼崎市に来ていただいたというわけなんですけれども、さてちょっと自己紹介方々ですね、船木顧問の方から博報堂でどんな仕事されてたのかとか、あと今顧問としてどんな仕事をして下さってるかという辺り少しお話していただいてもいいですか。

船木：はい。ありがとうございます。私はですね、今ご紹介をいただいたように博報堂という会社でマーケティングというのが専門でやっていました。マーケティングっていうのは色々戦略を考えたりする仕事なんですけど、その内ソーシャルマーケティングというジャンルがありまして、「社会の課題をみんなで解決しよう、その為はどういうやり方があるかという知恵をみんなで出しましょう。」というのが私の専門分野ということになります。皆さんがご存知だとすると、環境省さんがやったチームマイナス6パーセントという温暖化防止のプロジェクトとかですね。あと実は僕内閣府に出向してた時期がありましてですね、その時にワークライフバランスのカエルジャパンというプロジェクトがあるんですよ。そういったようなことをさせていただいていました。まあ、そんなことが私の経歴といたしますかね、仕事かなという風に思っています。

稲村：はい。で今、顧問としてどんな仕事をというか、私が頼んでくるくせに顧問にふちゃってちょっとおかしかったんですけども。実はいわゆるみんながイメージするプロモーション。まあ、代理店が普通仕事として受けていくような、戦略的に上手に色んなものを発信していくとか魅せていくという部分も、もちろん顧問には色んなアドバイスをいただいている訳なんですけれども、いつも常々顧問から言われているのは「その外見だけじゃ駄目なんだ。」というところなんですよ。ちょっとその辺りをもう少しお話いただいてもいいですか。

船木：はい。無理やり「お饅頭理論」なんて言葉を作ってみたりなんかもしたんですけど、外側のある種パッケージのようなものないしは、我々の世界でいくとキャッチコピーをつけたりですね、そういった形で町をこう売るみたいなやり方も無い訳ではないんですけど、それ以前にですね、まず町としてひとつのこうメッセージを皆さんが共有できてるかというところがすごく大事ななという風に思っているんで、まずは内側からひとつになって固まりましょうと。まあそういう思いで我々の仕事といたしますか、市の仕事を見直し、市の皆さんと尼崎市にお住まいの皆さんと

共にですね町の魅力を外に伝えていきたい。その為のまあ準備段階というんでしょうかね最初の第一歩というのを今手がけているというような言い方に、なるかもしれませんね。

稲村：はい、そういったことを進めていく為のひとつのツールとしてこの度“ 尼崎版シティープロモーション推進指針 ” 題して“ あまらぶ大作戦 ” というのをシティープロモーション推進部の間ことうやって町のイメージアップをしっかりと進めていく為に新しく作った部署で船木顧問を初めとするメンバーで作ってもらった訳なんですけれども、この推進指針についてもちょっと教えて貰えますでしょうか。

船木：はい、これは昨年私が尼崎にお世話になって一年間かけて皆さんと一緒に議論させていただいた結果ようやく形になったというものなんですけれども“ 尼崎を好きな人があふれる町をめざして ” というようなメッセージですね、市の職員向けにまずは作らせていただいたと。尼崎市全部がこうひとつの思いを共有する前にですね、まずはその中心にきつとなるであろう市の皆さんが思いをひとつにして欲しいなという願いを持って作らせて貰いました。これは我々の世界でいうとインナーブランディングという専門用語があるんですけど、まずは内を固めていきましようというようなことで、一応教科書通りなステップは踏んでいるというような事ではあります。

稲村：はい。で、この“ あまらぶ ” という風に名づけられたんですけれども、これは「尼崎らぶ」っていうことですよね？

船木：そうですね。実は尼崎市さんにお世話になる前に長崎ですとかね、高知ですとか色々な町をお手伝いするという経験をさせて貰ってきてるんですが、すごく大事なことというか、僕自身がその町を好きになる時にですね、その町を好きな人に出会うとその町を好きになるという定理を私が勝手に作っているんですけど…。

稲村：いや。ものすごく良くわかります。

船木：そんな思いでいてですね、まずは尼崎の人が自分の町を好きになってもらいたい。ないしはそういう人がもっともっと増えて貰いたいと、そういう人にきつと外の人達は会いに来たいなと思ってくれるのではないかな。まあそんな思いがあってですね“ あまらぶ ” という言葉をまずは皆のこう呪文のような言葉として使って貰えるといいなと思って、思わずこれはひねり出しました。みたいなことなんですけど。

稲村：実感として私もすごく共感するんですけれども、やっぱりこう素敵な人を育てている町っていうとすごく印象が良くなるし、やっぱりそういう人達がいるって言うことがまた次の良い循環を生むっていうのは本当にそう思うんですね。尼崎市はね元々たくさんの地域から色々な方々が来て発展を支えて来て貰ったっていう歴史の街ですけれども、何ていうんでしょうね、本当に飾らないし、気取らないし、そしてそういう何か多様性の中から何かエネルギーが生まれてる町だと思うので、そういう意味ではまあ非常にその理論は上手く行くんじゃないかな？と期待もしてるんですけどもね。

船木：嬉しいですね。私の実感の中から偶然でできたものなんですけど、形になると嬉しいなという風に思ってます。

稲村：そうですね。やっぱりそのインナーブランディングと専門的には言うんだということだったんですけれども、やっぱり私たちが尼崎のもっともっと良い所や新しいブランドイメージというか、そういうのを発信していく時にやっぱりそれを意識して市役所は政策も進めて行きたいし、市民の皆さんと一緒にそういう事を育てて行きたいという意味でも、“ あんこ ” の部分の中身と、そ

れを上手に美味しく包むというのは、やっぱり一体不可分だということなんですね。外だけでは駄目だということが私もよく分かってきました。

船木：外だけであればね代理店としてお仕事貰いに来れば実はいいのかもしれないので、せっかく一緒にいる機会があるというのは“あんこ”を練るところから一緒にお仕事させていただきたいなあという風に皆さんとも思っております。

稲村：頼りにしております。

船木：頑張ります。

稲村：はい、そして顧問にも来て頂きましてシティープロモーション推進部ではこういう指針に基づいて、本当に色々な取り組みを進めて貰ってるんですけども、一番新しい取り組みとしては“あまらぶウェルカムムービー”の作成というのをやって貰ったんですよ。私も実はこの間撮影をしたばかりなんですけれども、顧問の方からこの制作意図といいますか今後どういう展開になっていくのかというのをお話いただいていた方がいいでしょうか。

船木：はい。尼崎市はですね非常によい町だなと私も1年来て思うんですけども、なかなか外に良さというんでしょうかね、それがなかなか伝わりきれていない。もしくはこう昔のイメージのまま、今のこう変化というんでしょうかね、いまの町の姿になかなか皆さん目が向いていないという所を、もう1度気付いて貰いたいと。改めて「あ、尼崎ってこんな風になっちゃってるんだ。」とか「こんな実は新しい顔がある。」みたいな所を皆さんにもう1度知っていただいて、町に住んでいただいたり、町で遊んでいただいたりというような事をもう1回していただきたい。その意味でまず“ウェルカム”という部分と、なるべく、ないしはもしくは来ていただいた方に「あ、尼崎って好きかも。」まさに“あまらぶ”ですね。そういう思いを持っていただきたいというそういう思いを伝える為の“あまらぶウェルカムムービー”というような事を考えております。

稲村：これはいわゆる尼崎のスポットを紹介するとかいうだけじゃないですよね？

船木：はい。普通の行政のつくる観光ムービーではなくて、お笑いの町、これもひとつの尼崎の特徴だと思うんですが、やっぱりひとつ仕掛けが欲しいということで。とはいえちょっとベタかなというふうには思うんですが、あまらぶのラブストーリー仕立てというんでしょうかね、生まれも育ちも尼崎の生粋の尼っ子で天野咲ちゃんとですね、1年前に尼崎に引越してきてこの町どんな町かな？って思っているような会社員の尼崎大介君のふたりのこう愛を育み、そしてお子様を育てていただくというようなこう家族のあま〜いラブストーリーそんなものをイメージして絶賛制作中であります。

稲村：そうですね、ちょっとまあくすっと笑って貰いながら、でもちょっとこうリアルに感情移入をして貰えるような、そんなムービーになればという風に期待もしています。もちろんロケ地は全編尼崎ですね？

船木：はい。尼崎ロケです。

稲村：私もまだ見てないんですけども楽しみにしてるんですけども、これはいつ頃できそうなんでしょうか？

船木：まさに今週、最後のシューティングといいますか、撮影が終わってですね8月の中旬ぐらいからは動画共有サービスであるYouTubeですとかですね、市が主催するイベント等々でお見せできるんじゃないかなという風に思っています。

稲村：あと尼崎市は住み続けてもらいたいそして、新しく尼崎市にどんどん新たに住んでもらう人を増

やしたいっていう事で、色々な取り組みをやってる訳なんですけれども、マンションのモデルルームですとかギャラリーですとかそんな所でも流して貰えそうだって聞いたんですけど。

船木：そうですね。もうすでに何箇所か手をあげていただいていたりとかですね、あと家電量販店ですかね、そういった所でも流して貰えたりとか。

稲村：テレビとか置いてあるところですね。そこでちょっと流してもらったりですね。いいですね。いいですね。楽しみです。もちろんホームページなんかでもね、アップをしていくんだと思いますが、ぜひ皆さん楽しみにしていて貰いたいと思います。はい、それでは顧問、今日は本当にありがとうございました。

船木：ありがとうございました。

稲村：今回は尼崎市顧問の船木成記さんをゲストにお迎えしまして“あまらぶ大作戦～尼崎を好きな人があふれる町をめざして～”という事で本市のシティープロモーションの取り組みについてお話をさせていただきました。それでは、次回の放送も皆さんどうぞ楽しみに～。